

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の外来語の研究
Author(s)	クルボノーヴァ ムニラ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 31期 : 64 - 74
Issue Date	2016-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00042508">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00042508</a>
Right	
Relation	



# 日本語の外来語の研究

クルボノーヴァ・ムニラ

## 1. はじめに

世界のどこの国の言語にも外来語がある。例えば、英語は外来語だらけの言語で、少なくとも65%以上は外来語だ。日本語でも外来語の使用が目立って増大しており、日本人にも覚え切れないほど、新しい言葉が次々に出現している。その中で著しい増加を見せているのは英語から入ってきた外来語である。専門領域でしか使われないはずの言葉が一般社会にどんどん流出し、白書・広報紙などの公的文書や多くの人を対象とする新聞・放送(テレビ・ラジオ)や国を代表する政治家のインタビューなどでも新しい外来語が使われ、勢いを増している。しかし、日本語で使う外来語は英語の発音をそのままカタカナにするだけでなく、日本語の発音に沿って表記を変えたものが多い。また短く省略したカタカナ表記が目立つのが特徴である。つまり、言葉は生き物と同じで、常に新しいものが使われるようになるため、それらを身につけなければならない。日本語の外来語について調査しようと考えたのは、いろんな言語に興味があったからである。本研究では日本語とロシア語における外来語の特徴、またロシア語からタジク語に入った外来語についても調べ、調査しようと思っている。

## 2. 日本語の外来語

『国語学大辞典』(東京堂出版、1980年)によると、「他国の言語体系資料(語・句・文字・等)を自国体系に借り入れて、その使用が社会的に承認されたもの」が外来語と呼ばれる。

日本は外国の文化に触れ、他の国の言葉を受け入れたことで、日本語が豊かなものになってきた。5～6世紀の頃、中国の文化に触れ、外来語としての漢字を大量に学び取った、それが外来語の第一波である。その千年後、16世紀の後半以降西洋から外来語を取り入れ、これが外来語の第二波になった。しかし、この第二波はずっと続き、今では、その勢いは第一波より強い。

日本語の語彙は、広義には、和語と呼ばれる固有語と、他の言語から受け入れた外来語とに分けられる。しかし実際には、日本語において外来語という時、一般に漢語を含めない。つまり、一般に外来語と言えば、西洋から取り入れた語彙である。

西洋から外来語の流入が400年以上にわたって続いてきたが、これは大きく次の三つの時期に分かれる。第一期(1543-1639)はポルトガル語とスペイン語からの外来語が中心をなす。第二期(1639-1859)はオランダ語からの外来語が中心をなす。第三期は英語を始め、ヨーロッパ語からの外来語が中心をなしている。明治以降、日本は欧米化したため、外来語が増えた。明治時代に比べ、現在は漢学の素養がなくなったため、漢語の造語が少

なくなった。明治時代に西洋を日本に紹介した人たち、例えば、中村正直などは、みな漢学を学び、中国の古典に通じていた。この人達が若いころの基礎教養となる学問が漢学だったからである。維新後は学問教養の基礎が西洋文化に置かれるようになり、その結果の現れてくるのが大正時代である。大正時代以降は漢学の素養を持つ人が少なくなったため、漢語を用いた翻訳語が生まれにくくなった。国際化と情報化を特徴とする現代社会では、翻訳語が追いつかない。現代社会では情報量が爆発的に増えている。世界各地から集まってくる数多くの情報をできるだけ早く整理して報道しなければならない。また、苦勞して翻訳してみても、新しい訳語をゆっくり創り上げるだけの時間がない。それに、苦勞して翻訳してみても、訳し方がまちまちであると、全体として受け手の混乱を増すことになりがちである。新しい外来語の扱いに困ったときは、意味の説明を添えてカタカナの外来語として使うほうがいい。

また、ぎこちない中国語の語彙、古い和語の語彙と比較すると、カタカナ外来語は語感が斬新で、流行っているものと感じられるようだ。今や外来語はもっぱら欧米系の言語のものだが、外来語と欧米文化はうまく溶けあい、現代化する日本人の生活に「新しく、上品」という感覚をもたらしている。外来語の「新鮮」な語感は、流行という変化を好む日本人にとって極めて好ましいものだった。

## 2.1 外来語の種類

日本語の外来語は多様性に富んでいる。現代日本語の語彙構成は『国立研究所の語彙調査』(1966年)によると、日本語本来のものである和語が38.8%、漢語系外来語が44.3%、そのほかの外来語が日本語全体の60%以上を示している。日本語としてすでに定着し、日本語教育でも馴染みのある外来語はいろんな分け方ができる。

- ・日本になかった事物や新概念を表す外来語で、すでに慣用の久しいもの、人間文化
- ・専門用語として取り入れられた外来語(専門分野によって非常にたくさん見られる)
- ・イメージをよくするための外来語(日本語の外来語)の造語
- ・和製外来語(若者の流行語や省略外来語)。

しかし、起源、成立の仕方に基づいて分けると、以下のようになる。

### ① 外来語(カタカナ)

外来語は基本的な語彙が少なく、比較的限られた領域で使用される。外来語の用法はいくつかのグループに分けられている。

- ・外来語は原語の品詞が何であれ、無変化詞として日本語に入り、その意味によって、名詞・動詞・形容動詞になる。

announce (動詞)・優れたアナウンス(名詞)

relax (動詞)・リラックスした状態・リラックスな状態(形容詞的)

・原語における接頭辞・接尾辞（せつびじ）は、日本語に入っても、接頭辞・接尾辞として用いられるのが普通である。

ポスト森、マルチ人間、プレ五輪、漫画チック、等々。

・原語では独立して用いられる語でも、外来語としては普通複合語の一部としてしか用いられない語もある。

ガール……バスガール、ガールスカウト  
フード……フードセンター、ドッグフード  
バート……バートウオッチング、ウイーク

・最近の傾向として、従来は外来語になりにくかった原語の冠詞、前置詞、接続詞なども外来語として現れるようになってきた。

The 舶来寄席、郷ひろみインNY、ヨーロッパ・スーパーDJ、オン・ライン、オリジナルTシャツ or バッグプレゼント等

・外来語は内包的意味、感覚的意味をもつ。

ホテル／旅館／宿屋、ステッキ／つえ、ライス／ご飯、ビル／建物、ミルク／牛乳  
ツナ／まぐろ、トイレ／便所、ローン／借金。

・同義語・数義語

デモクラシー／民主主義、電子計算機／コンピューター、エコロジー／生態学、カルチャー／文化

## ② 漢語（外来語と考えられていない）

日本語における漢語とは、語種の一区分であって、比較的古い時代の中国語から借用された形態素、すなわち漢字の字音から構成される語彙体系である。

古代の素朴な日本人は、食文化に関して中華文明に負うところが大きかったようだ。調味料は、「蔗糖」（ショトウ）、「蜜」（ミツ）、「酢」（ス）、「未醤」（ミソ）など、「塩」以外はほとんど漢語である。香辛料も「胡麻」（ゴマ）、「胡椒」（コショウ）、「薄荷」（ハッカ）、「生薑」（ショウガ）など多数ある。なお、「胡」は中国の「西域」を示す字という。加工食品に関しても「麩」（フ）、「豆腐」（トウフ）、「煎餅」（センベイ）、「辣蕪」（ラッキョウ）、「餡」（アン）、「饅頭」（マンジュウ）、「索麵」（ソウメン）、「饅飩」（ウドン）、「織羅葡」（ソボロ）など、古代から近世まで様々な食品名が漢語に由来している<sup>1</sup>。中でも「インゲンマメ」などは禅宗の僧に由来する食品、隠元隆琦（りゅうき）の名に因むとされる）として有名である。基本的な語彙では、「肉（ニク）」、「毒（ドク）」、「茶（チャ）」などが挙げられる。

以上の例のように漢語はいろいろな分野の言葉に見られる。

### ③ 和製外来語

和製外来語とは、日本語の中で使われる外来語の言葉一つ以上を元にし、かつ、元の言語には存在しない言葉。また、外来語のほとんどは、ヨーロッパ（西洋）の言語由来であるため、和製洋語などともいう。例をあげると以下のようなになる。

a. **和製英語**：ホームドラマ (a drama of home life)、ハイセンス (stylish, fashionable)、ゴールデンウィーク (a week having consecutive holidays)、シャープペンシル (a mechanical pencil, an automatic pencil)、サラリーマン (a white-collar worker, an office worker) ガソリンスタンド (a gas station)、モーニングサービス (coffee or tea and toast served at a specially reduced price during the morning hours) 等々。

b. **和製漢語**：日本で日本人によってつくられた漢字は和製漢語と呼ばれる。古典中国語・近代北方中国語の語彙・語法・文法を基盤として参照しつつ、ときに日本語の語彙・語法・文法の影響（和臭）を交えて造語された。古くから例があるが、特に幕末以降、西欧由来の新概念などを表すために翻訳借用として盛んに造られるようになった。**日本製漢語**ともいう。

「和製漢語」の意味する範囲は論者によって様々であり、統一見解はない。「共和」のように、古典中国語に用例があっても、新たに日本人が近代的概念・意味を加えて使用するようになった場合も和製漢語に含めることがある。たとえ純漢語であっても日本で何らかの意味変化をしているため、意味の拡張だけで和製漢語に認定することには慎重な立場もある。

日本の文物を表す漢語も、和製と考えてよいだろう。例としては、和服、和文、人力車、浄瑠璃、能楽、三味線、茶道、弓道、柔道などがある。

また、以下の漢語も和製漢語の可能性をもつが、近代日本と中国の間での移入・移出の関係は複雑であり、一応のリストとして理解しておきたい。これらの多くは、近代期にで英語などを取り入れる際に漢訳して取り入れたことに由来する。

暗示、白金、半径、飽和、保険、悲劇、背景、本質、比重、必要、標語、表決、波長、不動産、財閥、挿話、成分、乗客、抽象、出版、触媒、大気、代議士、単元、蛋白質、道具、登記、低調、抵抗、地質、電波、電車、電話、電流、電子、動産、独占、隊商、対象、対照、法人、反動、反感、反射、反応、範疇、方程式、方式、雰囲気、否定、附着、複製、改編、改訂、概括、概略、概念、感性、幹部、幹線、高潮、高炉、歌劇、工業、公報、公称、公民、公僕、公訴、共産主義、共鳴、関係、観測、観念、光年、光線、広告、広義、帰納、国際、国庫、国税、寒帯、寒流、航空母艦、号外、化膿、化石、化学、化粧品、画廊、幻灯、幻想曲、回収、会話、会社、会談、活躍、火成岩、積極、基調、基準、集団、計画、技師、仮定、尖端、間接、建築、鑑定、講壇、交際、交響楽、

膠着語、脚本、教科書、教養、酵素、接吻、結核、解放、解剖、介入、金剛石、金婚式、  
金牌、金融、緊張、進度、進化、進化論、進展、経験、景気、警察、警官、浄化、静脈、  
競技、就任、巨頭、決算、絶対、看護婦、看守、抗議、科学、可決、客観、客体、肯定、  
空間、会計、拡散、類型、冷蔵、冷蔵庫、理論、理念、理想、理智、力学、等

#### ④ 混種語

混種語とは異なる言語に由来する二つ以上の要素が結合してできた単語である。例えば、  
和語＋外来語、その逆の外来語＋和語の結合を見てみると、次のような例がある。

朝シャン、ロコミ、生ビール、板チョコ  
コップ酒、ドル箱、ゴム長、ビヤ樽

#### 漢語＋外来語／外来語＋漢語

家庭サービス、省エネ、満タン、  
アイドル歌手、スリル満点、ヒット曲、レトロ調、サラダ油。

### 2.2. 日本語の外来語の使い方の特徴

日本語の外来語は他の分け方もできる。

- ・完全に日本語に定着したもの
- ・一時的に使われた後、消えたもの
- ・ある特定の分野や職業の人の間でのみ使われ、理解可能なもの
- ・国際化が進むにつれ、どんどん増えて来るもの
- ・便利のために省略された外来語等々

また、カタカナ表記になった日本語、外来語と言いきれない言葉もある。

例：シャハン（車内販売：しゃないはんぱい）、イクメン（育児をする男：いくじ＋men めん）、  
イケメン（容姿が優れている男性：いける／いけてる＋面めん or/and men めん）。

外来語が日本語として定着する過程には新陳代謝が見られ、また使われる領域や変化も  
一致しているとは限らない。きわめて複雑である。近頃、日本の専門分野における参考文献  
には外来語の使用が目立っており、日本語学習者にとっては習得困難なものが増えつつあ  
る。

### 3. タジク語におけるロシア語起源の外来語

タジク語はロシア語の影響を大きく受けている。1868年にタジキスタンがロシア帝国に  
併合された時からタジク語とロシア語の接触が始まった。そして、1917年の10月革命以  
降、それはほぼ全国に広がった。ロシア語の影響を受けてタジク語は豊かになり、次のよ

うな言葉が使われるようになった。

Почта (pochta)－郵便局、Лампа (lampra)－ランプ、Печка (pechka)－ペーチカ、  
Помидор (pomidor)－トマト、Вокзал (vokzal)－駅、Картошка (kartoshka)－ジャガイモ、  
Радио (radio)－ラジオ、Армия (armiya)－軍、Газета (gazeta)－新聞、  
Телевизор (televizor)－テレビ

一方、独立後は、次のような、ソ連時代の政治的な、イデオロギー的語彙は使用が禁止された。

Конфликт (konflikt)－紛争、Комсомол (komsomol)－コムソモール、Партия (partiya)－党、  
Социалистический (sotsialisticheskii)－社会主義的な

タジキスタンの国語はタジク語であるのにも関わらず、日常会話や新聞、ラジオなどではロシア語の言葉が多く使われるようになった。若者の中にはロシア語の言葉が「かっこいい」というイメージを持つ者が多く、例えば「自転車」と言う時、ロシア語の「ヴェロシペド (Велосипед)」ではなく、タジク語の「ドゥチャルハ (Дучарха-ducharha)」を使うと、「古いイメージ」で捉えられてしまう。他の例では、ロシア語の「ЗАГС ((отдел) записи актов гражданского состояния-otdel zapisi aktov grajdanskogo sosyauanie)－戸籍登録(課)」は日常会話で使われ、同じ意味のタジク語「ШКАШ(шубай кайди актҳои ахволоти шаҳрванди-shubai qaidi akthoi ahvoloti shahrvandi)」は公式に使われる「かたい」表現であり、テレビ、ラジオ、雑誌などで使われる。他の例は次の通りである。(表1)

ロシア語	読み方	タジク語	読み方	日本語
Паспорт	Pasport	Шаходатнома	Shahodatnoma	パスポート
Вокзал	Vokzal	Истгоҳ	Istgoh	駅
Институт	Institut	Донишгоҳ	Donishgoh	大学
Ресторан	Restaran	Тарабхона	Tarabkhona	レストラン
Команда	Komanda	Даста	Dasta	チーム

### 3.1 日本語とタジク語の外来語における違い

日本語の外来語の意味を原語と比べてみると、原語の意味の方がもっと広いことがある。それをタジク語の外来語と比べてみると、違いが感じられる。

石綿敏雄(『日本語と英語の谷間』1983)によると次のような例が挙げられる。

日本語の外来語に「ビルディング」という言葉がある。英語の building から来ているのは間違いない。しかし、日本語の「ビルディング」と言っているものと、英語の building はかなり違う。日本語のビルディングというのは「堂々たる高層建築」を表している。し

かし、よく調べてみると、英語の building は日本語の外来語の「ビルディング」も指すが、それだけでなく、ずっと小さい建物のことも指しているようである。同じ表現が使われていても、やはり指すものは違うことがある。例えば、英語に lunch があり、日本語でこの言葉は外来語として使われている。しかし、その意味は違う。「ランチ」は「洋風定食」のことであり、レストランでは朝ご飯としてでも、昼ご飯としてでも、晩御飯としてでも食べることができ、ランチを注文するというはそのレストランが定めた盛り付けのものを食べることになる。つまり日本語の「ランチ」と英語の lunch では「定食」と「昼ご飯」の違いがある。そういう例が非常に多いので、使う時に注意が必要だ。

日本語の外来語はカタカナで表す。他の言語から言葉を取り入れる場合、原語の発音に合わせてカタカナで書くため、どの単語が外来語か分かりやすい。しかし、タジク語の場合は全く違う。ロシア語の言葉を借用するときは、ロシア語のことばの音や文字をそのまま使うことが多い。例えば、「インターネット」はロシア語で「Интернет-internet」であり、タジク語の中でも「Интернет-internet」と表記される。また、ロシア語は文字通りに発音されないが、タジク語でも同じように文字通り発音されない。例えば、ロシア語の「автовокзал-avtovokzal (バス停)」という言葉は、書く時は「автовокзал (avtovokzal)」と表すが、読む時は、「автавакзал (avtavakzal)」になり、タジク語も同じように「автавакзал—avtavakzal」と読んでいる。

### アラビア語起源の外来語

イラン西部にあるホラーサーン (Huroson) とモヴァロウナフル (Movarounahr) の二つの地域では、7、8 世紀からイスラム勢力の進出によってアラビア語が数多く入ってきた。しかし、今ではこのアラビア語の起源の言葉は外来語とは呼ばれず、タジク語化している。例えば、次のような単語である。

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. Китоб (Kitob) - 本      | 3. Мактаб (Maktab) - 学校     |
| 2. Муаллим (Muallim) - 先生 | 4. Таъбият (Tarihiyat) - 教育 |

このような言葉は日常会話や雑誌、新聞などで使われており、タジク人は外来語ではなく、自国、タジク語の言葉だと考えている。これは、日本語で漢語を外来語と考えないことに似ている

## 3.2 日本語とロシア語における外来語

ある言語が他の言語から言葉を借用するのはどういう時であろうか？

『言語は水と同じで、文化の高い方から低い方へ流れる』というのが古来から則なのだ (楳垣実 『日本外来語の研究』1963年)。

「学問や文化、政治、経済の優勢な方が語を借用する。しかし、ぶどう酒がワインになり、試験がテストになり、寝台がベッドになり、「力を増す」が「パワーをアップする」となったのは、日本語よ

り欧米の方が文化が高いという事実によってではなく、英語・フランス語の方がしゃれた感じがするという、日本人の心の中にある洋風指向のためである」(樺島忠夫『日本語はどう変わるか』1981年)

Заемствования. Обогащение словарного состава языка за счет словаря других языков – обычное следствие взаимодействия разных народов и нации на почве политических, торговых, экономических отношений. При заимствовании новые слова чаще всего приходят вместе с новыми вещами, с введением новых организационных форм учреждений, должностей. Однако бывают и такие случаи, когда заимствованное слово приходит как синоним для уже имеющегося в словарном составе заимствующего языка слова... Причина такого дублирования слов в языке бывает разная; иногда это стремление к терминологичности, особенно когда заимствованное слово – международный термин, иногда стремление выделить какой-нибудь оттенок, значения неясный в своем слове, а иногда и просто мода на иноязычные...

(А.А. Реформатский. Введение в языкознание, 1967)

日本語訳「借用とは、他の言語の語彙を取り入れることにより自国語の語彙を豊かにすることであるが、それは、政治、商業、経済関係を基盤にした諸民族の相互関係から生じる普通の現象である。借用する際、新しい言葉はそれが指す新しい物、新しい組織形態、施設、役職とともにやって来る。しかし、受け入れ側の語彙の中にすでにある語のシノニムとして借用語が入って来ることもある・・・語の重複が起こる原因は色々で、術語指向(借用語が国際的術語である場合)が原因となることもある。・・・」

(A.A. リフォルマツキー『言語学概論』、1967年)

日本語とロシア語の両方に借用されている英語の品詞はさまざまで、一つの形で名詞にも動詞にも、自由に使い分けられるものが多い。例をあげてみると、英語「back」は名詞・動詞・形容詞・副詞として使われる。しかし、日本語も、ロシア語も、ほとんどの場合まず名詞として借用する。そして、それらの一部は、ロシア語でも日本語でも接尾辞を付けられ、動詞や形容詞としても使われるようになる。

#### Standard▶

стандарт▶[standart]標準

стандарт-ный[standart-nui]▶?スタンダードな

стандарт-изировать[standart-izirovat]▶標準化する

стандарт-изация[standartizaciya]▶標準化

笹尾道子『ロシア語と日本語における英語からの借用語』(1982年)によると、ロシア語と日本語はどのような外来語を受け入れるのが、以下のように分類されている。

#### 3.2.1 英語の主要な意味をロシア語、日本語とも受け入れている場合

このグループには278語も属する。スポーツ用語として入ったものももっとも多く、11パーセントにもある。

例: baseball/ бейсбол [beisbol]/ベースボール

basketball/баскетбол[basketbol]/バスケットボール ;  
tennis/теннис[tennis]/テニス等

そのほか、様々な分野で使われている共通の借用語も非常に多い

Blues/блюз[blyuz]/ブルース ; dollar>доллар[dollar]/ドル ; acre/акр[akr]/エーカー等。

英語、米語特有のことがらを指す語を、日露では当然自国のことがらに用いることはないが、日本でだけポピュラーになり、ソ連ではまだ辞書の説明に「アメリカの(外国の)とことわり書きがつくものがある(jeep>джип[dzip]・ジープ ; boss>босс[boss]・ボスほか)。同じく「資本主義社会の～」とことわり書きがつくものには publicity, dumping, marketing, management を借用した語がある。逆にソ連では普通に使われ、日本では「熱帯地方の～」とただし書きがつく語に squall>шквал [shkwal] スコールがある。

ロシア語は英語の一般的性の高い意味の基本語彙しか借用しようとしませんが、日本語は副次的な意味の語彙もいくらか受け入れることがある。しかし、主要な意味と副次的な意味が離れすぎて、理解しにくい場合もある。例えば、「jig>ジグ (踊り、ジグ針)」がそうで、これはロシア語では踊りの意味しかない。

### 3.2.2 ロシア語、日本語のどちらかに英語の主要な意味が欠けている場合

日本語、ロシア語のどちらかで英語の主要な意味が欠けているケースがある。欠けているのは80語、すべてロシア語の方であった。そして、ロシア語は意味がせまい専門的なものが多い。ここでもロシア語はスポーツ用語として使われるものが多く、全体の17パーセントくらいを占めている (deck>бек , set>сет , pass>пас ほか)。その他の専門用語には、chain>чейн (英語の長さの単位 : 66ft.)、steps>ступс ([【船】しょう座)、flat>флат ([【印刷】ばらばらになった印刷紙) など、英語特有のものを表す語や、海事、機械、経済用語など、40%近くある。ロシア語に入るときに意味の限定されてしまったものも多い。

例 : box (箱)・бокс ([【病院などの】隔離室)、boots>бутсы (フットボール用の靴)、dog>дог (猛犬)、fan>фен (ヘヤードライヤー)。

一方、日本語には多義語が多い。例としてバック、セット、バス、チェーン、ステップ、プラットフォーム、ボックスなどをあげられる。

### 3.2.3 ともに英語の副次的な意味だけを受け入れている場合

原語の副次的な意味だけを借用している場合は二つのグループに分けられる。

- a. 英語の副次的意味のうち同じものを日本語でも、ロシア語でも借用している場合
- b. それぞれ別のものを借用している場合

大部分が、日本語・ロシア語で意味の重なる部分をもっているが、離れているものには、shaver>шевер (金属削り器) : シェーバー (電気かみそり)、clearing>клиринг (手形交換)、クリアリング ([【高とび】バーを越えること)、primary>праймриз (米

の予備選挙) : プライマリー (初歩の) などがある。

日本語・ロシア語ともに、ここに入る語には専門用語が多いが、それでも日本語の方が比較的多義で意味の適用範囲が広い。例えば、日本語の「converter>コンバーター」は

1. 回転変流機
2. 転炉
3. 周波の数切りかえ装置の意味で使われている。しかし、ロシア語の「конвертер」は2の意味だけである。

dispatcher はロシア語で диспетчер になるが、「生産作業指事者、鉄道・船・飛行機の運行管理者」と意味を広げ、日本語の「ディスパッチャー」は「飛行機の運行管理者」のみと意味を限定されている。

### 3.2.4 特殊な場合

日本語とロシア語の外来語では特殊な例がある。

例 : bar>バー (酒場) >バール (かなてこ) бар[bar] (酒場、かなてこ) ;  
cutter>カッター (切断器、船) >куттер[kutter] (切断器) катер[kater] (船)  
track >トラック (陸上) >трек [trek] (陸上) >трак[trak] (無限軌道)  
stick>ステッキ (杖) >スティック (ホッケーなど) >стек[stek] (鞭)

日本語はアメリカから、ロシア語はイギリスから英語を借用することが多かったため、英語と米語の意味の違いが日本語・ロシア語間の違いになることがある。Lift・лифт (エレベーター)、米 lift・リフト (貨物用昇降機) : 英 waggon・вагон (車両)、米 wagon・ワゴン (料理などを運ぶ手押し車、ステーションワゴン) など。

英語 car から来た日本語「カー」は造語力に富み、リアカー、マイカーといった和製英語を生んでいるが、「カー」だけで独立して用いられなくはない。ロシア語の кар[car] も электрокар(electric car)、автокар(auto car) といった複合語でのみ用いられる。

## 4. おわりに

本研究では日本語の外来語についてタジク語、ロシア語と比べもしながら考察した。日本語で外来語と言うと、欧米の諸言語から取り入れた言葉で、カタカナで表記する。しかし、日本人は中国語から来た漢語は外来語と考えていないようだ。そのような考え方はタジク語と共通だ。タジク語の外来語も諸言語から受け入れているが、アラビア語起源の言葉は外来語とは扱わない。10月革命以降、タジク語はロシア語からの影響も受けた。ロシア語の場合、書き言葉と話し言葉の違いは、タジク語の中にも取り入れても同じように区別される。そして、日本語における英語起源の外来語のように、タジク語の中のロシア語も、若者にとってカッコいいイメージがあり、よく使われる言葉になっている。

日本で生活していて、外来語の増加は日本人にとって自然なことであるということだと感じた。外来語を使うことによって、日本語はさらに豊かになっていくと考えられる。しかし、『外来語に関する意識調査』(国立国語研究所、2003年)によると、外来語は増えない方がいいと考えている人もやく30%いることが分かり、外来語の増加は日本人にとって、

難しい面もあることが分かった。

昨年から外来語についてこのレポート書き始め、日本語の外来語、ロシア語と日本語の外来語の特殊な場合ケース、タジク語におけるロシア語起源の言葉についていろいろ調べた。しかし、参照した文献は 2003 年以前の方が多かったのもので、その頃から今まで外来語にどのような変化があったのか、外来語がもっと増加しているのかどうか調べてみたい。また、タジク語についても先行研究が少ないため、それを明らかにするのが今後の課題である。

#### 参考文献：

- 『国語学大辞典』、東京堂出版、1980 年
- 石綿敏雄、『日本語と英語の谷間』、秋山書店、1983 年
- 榎垣実、『日本外来語の研究』、研究社出版、1963 年
- 樺島忠夫、『日本語はどう変わるか語彙と文字』、岩波新書、1981 年
- A.A.Реформатский.Введение в языкознание (A.A. リフォルマツキー『言語学概論』)、1967 年
- 笹尾道子、『ロシア語と日本語における英語からの借用語』、1982 年
- <http://ir.iwate-u.ac.jp/dspace/bitstream/10140/2296/1/al-no31p039-056.pdf>
- 国立国語研究所「外来語」委員会編『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』ぎょうせい 2006 年
- 田中健彦『外来語とは何か』、鳥影者出版、2002 年
- シュクロヴ、M. 他編 (1969)『タジク語辞典』サベツカヤ・エンツィクロペディア (Шукуров.М (1969) ”Фарханги забони тоҷики Москва нашриёти”, Советская энциклопедия)
- ラヒムザデ・カリーナ(2006)「ドゥシャンベのタジク語におけるロシア語の影響」ロシア国立プーシキン記念ロシア語大学卒業論文 (Рахим-заде Карина(2006) ”Взаимопроникновение русского и таджикского языка в разговорной речи население Душанбе”, Государственный Институт Русского языка имени А.С.Пушкина)
- <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%8C%E8%A3%BD%E6%BC%A2%E8%AA%9E>